

道具の選び方・使い方の基本

道具を選ぶときの基本ポイントは3つ。この3つがすべて備わっていることを条件に探せ。
その1 性能が良い事、刃物ならよく切れること。その2 使いやすい事。

その3 手入れしやすい事。 剪定バサミを例に語るならば、ちゃんとよく切れることは当たり前として、手の大きさに合ったサイズであるかどうか、研ぎやすい形であるかどうか。女性は剪定バサミを研ぐなんて考えないかも知れないが、女性でも簡単に研げる形のものを選び、常によく切れる状態に保つようにしよう。

1. ヘルメット

ヘルメットにも目的によって色々ある。衝撃・落下用という種類を選ぼう。プラスチックの帽体の内側に発泡スチロールの付いているものが良い。

夏は蒸れてとにかく暑い。熱が逃げるベンチレーションの穴が開いている物がよい。(このクラスになると少々お値段も高い) またヘルメットには耐用年数がある。(FRP製は5年、強化プラスチック製は3年) ホームセンターで購入するときは注意が必要。耐用年数が過ぎたものが店頭においてあることが多い。

(ヘルメットを買う時は秋山の森の松田さんに相談しよう。あるメーカーを紹介してくれて、うんと安く購入できる。もちろん、グループの名前も入れてもらえる)

2. ノコギリ

- ・ノコギリは必需品。マイノコギリを必ず持とう。標準的には24cm・27cmサイズが良い。ただ女性など体力を考慮して21cmサイズでも良い。
- ・ボランティア活動のスタートに当たっては、このマイノコギリ1本は最低限用意。ノコギリのサイズはいろいろある。長い方が力が入りやすく、楽な面もある。しかし、30cmサイズの物はリュックサックに入らず、他へ応援に行ったりするときに扱いに苦勞することがある。
- ・ボランティア活動もかなり進んできて、太く、高い木を切るようになるとマイノコギリだけでは力不足になってくる。そうなってきたらグループとして1~2本、33~37cmくらいの手曲がりノコギリをそろえると良い。
(シルキー造林370など。手曲がりノコもその辺のホームセンターにないことが多い。造林370は注文。手曲がりノコも林業資材専門商社から取り寄せるといいものが手に入る)
- ・高枝ノコギリもあるとよい。2段、3段、4段とあるが、2段では短くて効果が少ないし、4段では長くて重く使いにくい。3段くらいがよいだろう。
- ・竹用ノコギリ
竹は繊維が硬いので普通のノコギリをそのまま使うと切れ味が早く落ちることを覚えておこう。普通、竹用ノコギリといって売っているものは刃の目が細かく、竹細工や竹垣作りなどの時にもきれいに切れる。普通のノコギリと同じような荒い刃の伐採用

の竹用ノコギリもないわけではないが、めったに売っているのにお目にかからない。(普通の木用ノコギリを2本用意。枝を切る刃の切れ味が落ちてきたら竹用にまわし、更に落ちてきたら、刃を買い換えるようにするのも一つの手)

そんなに神経を使わないよという人は、普通のノコギリをそのまま使うべし。

もちろん、竹細工や竹垣を作るときは竹用ノコギリを使う事。

(竹の繊維がきれいに切れる)

3. 剪定バサミ

- ・剪定ハサミもあると良い。

マイノコギリと剪定バサミはボランティア活動スタートに当たっての2大道具と

いっていい。剪定バサミの標準サイズは20cmが良い。女性など手の小さい人は18cmサイズがお勧め。剪定バサミには左右がある。右利きの人は右用、左利きの人は左用を選ぶべし。(いずれにしても実際に手にしてみても判断すること) よほど手の大きい人には22cmサイズもある(ただし普通のところでは売っていない)

- ・ハサミを購入するときは刈り込みハサミも含めて、手入れしやすい=研ぎやすい物を選ぶべし。剪定バサミは刃先と受けの下が一致するもの。刈込バサミはストッパーがなく、刃先が交差して先へ出るもの。(ただし、こうした刈込ハサミはきわめて少ない)

こうした手入れしやすい形の左用剪定バサミを置いてあるホームセンターは少ない
千葉市にある刃物専門店の古川商店(043-222-3856)には、いろんな物が揃っているし、いい物もあれこれある。ホームページもあるようなのでチェックしてみる価値あり。また千葉市へ行くことがあれば覗いてみることをお勧めする。

(東金街道の入り口あたりの「きぼーる」の前。千葉中央駅から県庁方面行く途中)
流山街道の島忠には置いてあることがあった。いずれにしても、あっちこっち探すことをお勧めする。

- ・ハサミは皮ケースに入れ、ベルトで腰に下げるべし。そうでないと、ひょいとその辺に置くことになり、草にまぎれて行方が分からなくなり、半年くらい経って真っ赤に錆びて見つかることになる。もちろんベルトにはノコギリも一緒にぶら下げる。電工ベルトが良いが、最近売っている店がほとんどない。しっかりしたベルトを使えば良い。

・刈込バサミについていうと、今の物はほとんどすべてストッパーが着いている。使う時にカチカチと刃が止まるようになっている。長時間使うと、止まる瞬間に腕に力が入り、腱鞘炎につながる可能性がある。また、刃が交差しないので研ぎやすさに欠ける。売っているときにはストッパーの役を果たすネジが付いているが、これは外すのが前提で付いている岡恒というメーカーの「門型60」というハサミがある。研ぎやすいし、プロの庭師も多くがこれを使っている。

4. カマ

薄刃のカマは森では役に立たないと思ったほうが良い。厚手を選び。ナタカマもお勧め。

カマにも右利き用と左利き用がある。(片刃の場合)

5. ナタ

ナタは両刃より片刃の方が使いやすい。片刃のナタも右利き用、左利き用がある。左利きの人は左用を選べ。

ある程度ベテランになるまでは不要。(一般的にはナタを使うことは少ない)
一般的なナタのほかに、竹細工などの時に使う竹割ナタというものがある。混用しないように注意。竹を割るときに竹割ナタを金づちでたたく人がいるがこれは厳禁。タタキ棒を作ろう。(もちろん木槌でもよい)

6. 機械

- ・作業を効率的にするためには、いつかは機械が欲しくなるもの。作業用機械の購入・使用に当たっての基本的知識を持っておこう。逆に、この基本的な知識を持つ勉強をしないものは機械を使う資格がない。**刈払機・チェーンソーともきちんとライセンスを取って使うべし。**
- ・機械は多くの場合、エンジンで動く。(電気で動くものもある)
エンジンには4サイクルと2サイクルがある。一般的に作業用機械は2サイクルを使っているが、刈払機には4サイクルを使っているメーカーがごく一部ある(ホンダ・マキタなど)。エンジン音が静か、燃費が良いなど、いい面もあるが、他の2サイクルの機械と混在すると扱いを間違えることもある。オイルなど別種類を使うことになり、めんどくさいともいえる。
- ・同じ機能を持つ機械でもメーカーによって操作方法や扱い方が違うことがある。たとえばチェーンソーで、スチールとタナカでは燃料とオイルを入れる口が同じような位置にあるが、逆になっており間違えやすい(ガソリンとチェーンソーオイルを間違えて入れたという失敗が複数回報告されている)。他のグループから借りたり、応援に行ったりすることがある場合、特に間違えやすいので、可能な限り同じメーカーにそろえたほうが良い。そういう意味でも機械類を購入するときは先輩グループに相談すべし。できる限り、同じメーカーで揃えよう。
- ・ **2サイクルエンジン**
混合燃料を使う。ガソリンと2サイクル用オイルを混ぜて使う。ガソリン25(または50)に対し、オイル1の割合。2サイクル用オイルを買ってきて、それが燃料だと思ってそのまま燃料口に注ぎ込んでしまったという失敗が実際に起こっている。(はじめからオイルを混合した2サイクル用燃料も売っている。しかし高い)
2サイクルエンジンの機械は使った後は、燃料を抜き、エンジンをかけてエンストして自動的に止まるまで残った燃料を燃焼させること。(2サイクルエンジンは混合燃料を使う。残った燃料をそのままにしておくと、ガソリンは揮発するが、オイルは揮発しない。つまり、エンジン内に異物が残るということになる)
- ・ **刈払機**
刈払い機を使うときはメガネをかけよう。高速で回転して引きちぎるわけだからいろんな小さなものを飛ばして、目に入ることもあるので注意が必要。
(広いネットタイプもある)
一般的にはチップソーを使うことが増えたが、チップの刃が取れたら、交換しよう。

チップのほとんどが外れて無くなったものを使っている例も見られる。当然切れが悪くなっており、無理に振り回すことに繋がり極めて危険。チップが一つでも取れたら交換をお勧め。3つ取れたら、絶対に交換すべし。チップソーの刃も最近安くなっているの、安全のためには金を惜しむな。

・ チェンソー

チェンソーは高速でチェーン状の刃がガイドバーの周りを走る。この摩擦をいかに少なくするかが重要で、燃料のほかに必ずチェンソーオイルを入れる必要がある。たとえ動力が電気であっても同じ。チェンソーオイルは燃料を補給するときには同時に必ず入れる習慣をつけるべし。

使ったら必ず、目立てをすること。ちゃんと目立てをしてあれば力を入れなくても切れる。力を入れないと切れないのはちゃんと目立てをしていない証拠。林業の現場では、「休憩時間＝目立ての時間」といわれ、常に目立てしている。

- ・ 機械類を使うときは周辺機器・部品を取り揃えておこう。

7. 道具の入れ物

- ・ 道具が増えてくると入れ物が欲しくなる。袋タイプが手軽だがこれには注意が必要。知らないうちに刃物がケースから出ていたりすることがあり、袋だと中を見ずに手でまさぐることになり、結果として怪我をすることがある。道具入れは浅い箱が良い。昔の大工さんの道具箱をイメージせよ。
- ・ グループで物置というか倉庫を購入するときは、刈払機を縦に置けるサイズのものを選ぼう。また森の雰囲気に合わせて木製のものを選ぶ例もあるが、湿気やカビの発生などを考えるとスチール製の方がよさそう。

8. その他

- ・ 道具を選ぶときは、安さにつられず、マインドを持って選ぼう。
- ・ あれもできる、これもできると一つで多用途を宣伝している道具があるが、止めた方がよい。いずれも中途半端で使いにくく、何もできないと考えるべし。道具はシンプルな機能をいろいろそろえることを基本としよう。
- ・ 先輩に教えを乞うことを恥じるな。
- ・ 値段は少々高くとも、プロの使う道具を参考にしよう。
(プロと同じものを買えという意味ではない)
- ・ 林業資材器具の専門商社。高知県の「西山商会」(08875)3-4181。一般用小売価格と官庁価格(営林署や森林組合など)の2重価格だが、ボランティア団体でも官庁価格の登録をしてもらえる。松戸里やま応援団の名前も登録済。
 - ・ 安全ベルト。落下防止用をグループで用意しよう。
 - ・ グループで一つ、救急箱(入れる物をチェック)を用意しておこう。
 - ・ 森へ入るときは リーダーは笛を用意し、首から下げよう。

道具の手入れの仕方

1. はじめに

道具は使ったら、すぐ必ず手入れしよう。その習慣をつけること。手入れをちゃんとしていない、よく切れない刃物を使うということは無理な力を入れることになり、怪我をす元になる。怪我をしないためにも道具の手入れの習慣は大切。

- 1) 刃物はできるだけこまめに研ごう。
- 2) 使ったら、そのつど研ぐこと。そうすれば研ぐのもそんなに負担にはならない。
たま～に、サビだらけになったのを研ごうとするから大変！！ 気軽にやろう。

2. 砥石

- 1) 荒研ぎ、中研ぎ、仕上げの三種類あり、その中でもそれぞれ粒子の細かさ(荒さ)のレベル違いがある。数値の小さい方が荒く、大きくなればなるほど細かくなり、仕上げに近づく。
また、それぞれの間といった感じの荒中研ぎ、中仕上げ研ぎもある。
- 2) ちゃんと砥石を揃えるなら 200、400、1000 番の 3 個。
- 3) まあ、最低限揃えようとするなら200 番、1000 番の 2 個。
- 4) 一個あればいいよ、というなら 800 番。ただし、いつもこまめに研ぐこと。
200 番は削る感じ。400 番が一番「研ぐ」という感じを実感できる。1000 番は やはり仕上げているという感じ。(お寿司屋の板前などが使う仕上げ砥石は 4000 とか 6000 番というのもあり、ここでいう仕上げの次元と違う)
- 5) 材質は自然石と合成石があるが、合成石の方が使いやすく、値段も安いことが多い。
- 6) 砥石で研ぐのは当たり前。刃物を研ぐ前に砥石を研ごう。
砥石は使っているうちに片減りするので、これを平らに直す。コンクリートや舗装、ブロックなどの上で前後にゴシゴシ動かす。(ホームセンターでは砥石を研ぐペーパーも売っている)
- 7) 400 番の砥石はホームセンターで売っているところはほとんど無い。(ジョイフル本田には置いてあることがある)

3. 研ぎ方 (包丁をイメージして、研ぎ方の総論)

研ぎ方の基本を学ぶために自宅の包丁をいつも研いであげよう。

そうすれば、奥さんも喜んでくれるでしょう。

- 1) 刃先が丸くなり、切れないものは光にかざすと白く刃先が見える。研ぐと見えなくなる。
- 2) 砥石で研ぐと細かいノコギリ状の歯ができる。これが切れ味のよさになる。(刃物を機械で研ぐものでは刃先はシャープになるけれど、この細かいノコギリ状の刃はできない)

- 3) 歯が欠けたり、ひどく減っているときは、まず荒砥(200番)で削る。(時には砥石では対応できなく、グラインダーを使わなければならないことも)
- 4) その後、400番で刃をつける。バリが出るまで研ぐ。その後、仕上げにかかる。
(いつもいつも研いでいれば仕上げだけでよい)
- 5) 久し振りに研ぐときは刃をつける所から研ぐ。
- 6) 床で研ぐときは、砥石の台として角材を使うと良い。流しの上などでは滑らないようにタオルを下に敷く。
- 7) 刃を手前になるように持ち、砥石に対して45度斜めに置いて前後に動かす。力は押すときに入れる。
- 8) 右面(表)を研ぐときは、右手の人差し指から小指までの4本で柄を握り、親指で刃元を押さえるように持つ。左手は刃先を押さえるようにする。押さえた下が一番良く研げる。
- 9) 左面(裏)は左右反対にする。
- 10) 持ち方などは、人によって違いがあり、自分のやりやすい形を見つけよう。
- 11) 研ぐ前には砥石をしっかり水に漬け、途中は水をかけながら使う。
- 12) 両刃の場合 包丁の峰を少し(10円玉1~2枚分)浮かし、表面を7割、裏面を3割、返り(バリ)が出るまで研ぐ。最後にバリは、軽く研いで取る。
- 13) 片刃の場合 刃面(しのぎ)全体を平らに、バリが出るまでしっかり研ぐ。裏はバリを取るくらいで研ぎ過ぎないように注意。
- 14) 研いだら布で水気を取り、乾いたら油を塗る。(刃物の種類によって油は違う。包丁にはミン油を使うわけにはいかない)

4. 植木バサミの研ぎ方(裁縫用断ちバサミは素人では無理とあきらめよ)

- 1) ハサミを購入するときに「研ぎ易さ」を考慮せよ。
- 2) 研ぐのは表面のみ。噛合せ部分は研ぐな。汚れを落とすだけ。
- 3) 剪定バサミと木バサミの具体的研ぎ方(口で説明するのは難しいので、実演)
- 4) 刈り込みバサミの具体的研ぎ方(同上)

5. カマの研ぎ方

- 1) 砥石は少し小さいもののほうが使いやすい。
- 2) 研ぎ方は人によって様々。危険の少ない、自分に合った方法を見つけること。
- 3) 表をしっかり研ぎ、裏はバリを取る程度。

6. ナタの研ぎ方

包丁の研ぎ方に準じる。包丁のゴツイものと心得よ。

7. その他

- 1) 研ぎ終わった刃物は布で拭いて乾かし、ミシン油を塗って完了。(ハサミなどのネジ留めしてある刃元の重なった部分は布で拭くのが困難で乾きにくいので注意。乾くまでしばし待て！！)
- 2) 刃物は土の上に直接 置くな。刃に土がつくと極端に切れなくなる。ノコギリやチェーンソーを使うときなど、勢い余って刃が地面にわずかでもくいこまないように注意。(根っこを切らなくてはならないときはどうするの？→竹を切るのと同じと考える。要するに、ノコギリを分ける)

8. ノコギリの手入れ

- 1) 今の普通のノコギリは目立てなどしない。目立てできる材質になっていないし、やってくれる人もいない。また、自分で目立てしたいと思うのだが、やり方を教えてくれる人がいない。(ただし、大型の手曲りノコギリなど目立てできるものも無くはない)
- 2) 今のノコギリは基本的に替え刃方式。切れなくなったら、新しい刃と交換。
- 3) 木を切ったあと樹液や木クズをきれいに取る。汚れを取るには、バケツに水を張り、それに暫く漬けておく。(ノコギリを水につけておく間に、ハサミを研ぐようにする) 木くずが水でふやけたら刃を指で刃先に向かって軽くこすって取る。それでも取れないときは、歯ブラシを使う。
- 4) もう一度水で洗い、良くふいてから、乾かし、油を塗る。ノコが錆びるととにかく引きにくくなるので、丁寧にやること。
- 5) 水で洗っても取れない樹液は、油で拭く。(キョウチクトウなど。ただ、個体差があるらしく水の方が取れたこともあった)
- 6) 竹や根っこを切るとノコギリは急に切れなくなる。枝を切るノコギリと分けた方がよい。枝を切って、切れ味が悪くなったら竹や根っこへ回し、それも切れなくなったら捨てる。(替え刃を変える)
- 7) ノコギリにこびりついた樹液をとるスプレーも売られている。値段は高いけれど、水のない場所などでは良い。